

タテのカギ

- ①（セツカイ）石灰岩。炭酸カルシウムを主成分とするフズリナの殻、サンゴ、貝殻などが押し固められた。水中の炭酸カルシウムが沈殿・堆積した場合も。ハンマーや釘でこすると傷がつく。
- ②（リュウモン）流紋岩。火山岩はマグマが地表や地表付近で急激に冷やされた。斑状組織。
- ③（クキ）茎。双子葉類は茎の維管束が輪の形に並び、形成層がある。単子葉類は維管束がばらばらに散らばり、形成層がない。
- ⑤（レボルバー）対物レンズの種類を変える。
- ⑥（トクシマ）徳島県。最大直径 30 メートルにも達する渦潮。海水が渦を巻いて流れる。
- ⑧（タコ）蛸。頭足類はイカやタコ、オウムガイ（生きている化石）、アンモナイト（絶滅）など。
- ⑪（エツキ）柄つき針。細胞を観察するとき、先端部でつぶしたりほぐしたりして、観察しやすくする。
- ⑬（ムセイ）無性生殖。雌雄がかかわらない。親の遺伝子をそのまま受けつぐ。
- ⑭（テイキ）低気圧。中心では上昇気流。雲ができやすい。くもりや雨になることが多い。
- ⑯（キコウ）気孔。孔辺細胞に囲まれたすきま。ふつう、葉の裏側の表皮に多い。蒸散により水蒸気が出る。光合成や呼吸により、酸素と二酸化炭素が出入り。ふつう、夜間や雨の日・くもりの日は閉じる。昼間や晴れた日は開く。
- ⑱（テイタイ）停滞前線。暖気団と寒気団の勢力がほぼ等しい。梅雨前線や秋雨前線など。
- ⑲（カイセイ）快晴。天気記号。
- ㉑（キラ）キラッ。ネコの目の網膜の後ろには反射板が付いている。
- ㉒（サカ）坂道。上ると位置エネルギーは増加。位置エネルギーは物体の質量と基準面からの高さに比例。位置エネルギー (J) = 物体にはたらく重力 (N) × 基準面からの高さ (m)
- ㉓（イオ）エウロパ、カリスト、ガニメデ、イオの 4 衛星は 17 世紀にガリレオが発見。

ヨコのカギ

- ①（センリョク）閃緑岩。深成岩はマグマが地下深いところでゆっくり冷やされた。等粒状組織。
- ④（プレート）プレートテクトニクス。地球の表面で起こるさまざまな現象（地震や火山活動など）を、マントルの対流によるプレートの移動によって説明する理論。
- ⑦（キタ）北。春分・秋分の日には真東から上り真西に沈む。夏至のころは、もっとも北寄り。冬至のころは、もっとも南寄り。日の入りの時刻は太陽の上端が地平線に接する瞬間の時刻。
- ⑨（カリウム）水酸化カリウム。白色の固体。水によく溶ける。アルカリの性質が強い。
- ⑩（コバルトシ）塩化コバルト紙。水の検出に使う。水を吸収すると、青色から桃（赤）色に変化。
- ⑪（エンソ）塩素。Cl<sub>2</sub>。プールなどでかぐ鼻をさすようなにおい。ハロゲンの 1 つ。
- ⑫（オーム）Ω。電熱線などの両端に 1V の電圧をかけ、1A の電流が流れるとき、その抵抗は 1Ω。
- ⑭（テツ）鉄。融点 1535℃。磁石に引きつけられる金属。塩酸などの酸性の水溶液と反応、水素発生。
- ⑮（セキ）積雲。晴れた日の空に、ぽっかり浮かぶ綿菓子のように。寒冷前線では積雲や積乱雲が作り出される。
- ⑰（イキテ）生きている化石。地質時代から形態をほとんどかえず、現代まで生存している生物。
- ⑲（カイコ）蚕。絹糸のもとになるのは、カイコがつくり出す繭（まゆ）。
- ㉑（イエキ）胃液。塩酸をふくむ強い酸性。
- ㉒（サイ）再生可能エネルギー。繰り返し使用できる。
- ㉓（シタ）下。丸い刃は内臓や筋肉を傷つけないよう切開するとき使う。
- ㉔（ラツカセイ）落花生。南京豆、ピーナッツ。意味に違いは？
- ㉗（アオイロ）青色。酸性は黄色。中性は緑色。アルカリ性は青色。
- ㉘（イオン）イオン式。陽イオンと陰イオンに電離することを表す式は電離式。